

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	セントラル・パーク みさき たながわ教室			
○保護者評価実施期間	R 7 年 3 月 1 日 ～ R 7 年 3 月 3 1 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	R 7 年 3 月 1 日 ～ R 7 年 3 月 3 1 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○訪問先施設評価実施期間	R 7 年 3 月 1 日 ～ R 7 年 3 月 3 1 日			
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	5	(回答数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R 7 年 4 月 1 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業の目的が適切に説明されている	・利用開始時に、保護者に対して事業の目的や支援方針を丁寧に説明する機会を設けている ・定期的に支援計画の進捗を共有し、支援内容の透明性を確保している	・説明資料を視覚的にわかりやすくするなど、より伝わりやすい工夫を行う ・利用者からの質問に対応しやすい相談窓口の充実を図る
2	こどもの特性に応じた専門的な支援が受けられる	・こどもの特性を把握するために、保護者や訪問先施設との連携を密にしている ・職員の専門知識向上のため、定期的に研修を実施している	・支援方法のバリエーションを増やし、より柔軟な対応ができるようにする ・最新の療育・支援方法に関する情報を収集し、実践に活かす
3	こどもや保護者との意思疎通や情報伝達が適切に行われている	・こどもの成長や支援状況を、定期的な面談や報告を通じて保護者に伝える機会を確保 ・保護者が相談しやすい環境を整え、日常的にコミュニケーションが取れるよう配慮	・連絡手段を多様化し、保護者が都合の良い方法で情報を得られるようにする ・支援の様子を写真や動画で共有するなど、より具体的に伝えられる工夫をする
4	事業所の職員から共感的な支援が提供されている	・こども一人ひとりの気持ちに寄り添い、安心して支援を受けられる環境を整える ・職員同士でケースごとの対応を話し合い、より良い支援方法を模索	・職員のコミュニケーションスキル向上を目的とした研修を実施 ・保護者や訪問先施設からの意見を積極的に取り入れ、支援の質を高める

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムや研修会の機会が少ない	・保護者の参加しやすい時間帯の確保が難しい ・研修内容の周知が十分でなく、参加者が集まりにくい	・オンライン開催の導入など、参加しやすい環境を整える ・研修内容を魅力的にし、保護者の関心を引く工夫をする
2	訪問支援に使用する教具・教材の整備が不十分	・こども一人ひとりに適した教材を揃えることが難しい ・購入・作成のための時間や予算の確保が課題	・既存の教材を有効活用しつつ、新たな教材の導入を検討 ・自作教材の開発や、訪問先施設と連携した教材の共有を進める
3	緊急時の対応について訪問先施設と連携が不十分	・緊急時対応のマニュアルが整備されているが、実践の機会が少ない ・訪問先施設ごとに対応が異なるため、統一した対応が難しい	・訪問先施設との合同で緊急時対応訓練を実施する ・緊急時の連絡体制を明確にし、迅速な対応が取れるようにする
4	こどもが訪問支援を恥ずかしがることもある	・こどもの性格や状況によっては、支援を受けることに抵抗を感じることがある ・支援のスタイルがこどもに合っていない可能性	・こどもの気持ちに配慮した支援の方法を検討し、より自然な形で支援を提供 ・訪問支援を楽しめるような工夫を取り入れ、こどもがリラックスできる環境を作る